

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 9 月 3 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071000766		
法人名	有限会社 ケアサービス九州		
事業所名	ふれあいの家 笹丘		
所在地	福岡市中央区笹丘1-14-18 〒 810-0034 (電話) 092-725-5653		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年9月2日	評価確定日	平成21年9月11日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 17 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 10 月 1 日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	11 人	常勤	9 人	非常勤	2 人	常勤換算	6.7 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての～ 1、2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有( 300,000 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日あたり	円程度		

### (4) 利用者の概要( 8 月 17 日現在)

登録人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	1 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	2 名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田内科医院・さくら訪問看護ステーション・前田歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に位置し、近隣には商業地や病院が隣接しており、恵まれた環境に位置する事業所である。「地域に密着した支援活動」の理念をもとに地域の中で人としての尊厳と心のふれあいを大切に常に寄り添ったケアの提供に努め、利用者一人ひとりが安心・快適に楽しく暮らせるよう支援している。ホーム内で室内犬が飼われており、利用者・家族、職員等の良い癒しとなると共に近隣の子供たちが気軽に遊びに来るなど、地域交流が図られている。運営推進会議には、毎回、全家族が参加し、利用者・家族、職員がお互いを信頼し合い、同じ思いを持つ関係であることが伺える。利用者同士で自然な見守りや互いを気遣う言葉が交わされ、穏やかにその人らしい安らぎのある光景が見受けられ、家庭的な温かみと笑いに包まれた和やかな雰囲気を出しているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果について、運営推進会議で報告を行い、職員はミーティング時に改善についての協議を行うなどの取組みがある。この過程で民生委員が運営推進会議に参加したり、全利用者のケアの内容について、毎月検討するなどの具体的な成果がみられる。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の受審にあたり、全職員で項目の内容を検討し、管理者が確認するなどの取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 町内会長、民生委員、いきいきセンターふくおか(地域包括支援センター)職員、家族全員の参加のもとに2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況や外部評価の報告、地域の方から情報提供が行われている。運営推進会議時に、地域包括支援センター職員に成年後見制度などについて説明をしてもらうなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 面会時の声かけや電話連絡などを通じて、利用者の心身状況について報告を行なっている。毎月、ホーム通信を送付し、外出や行事などについて報告を行うなどの取組みがある。年1回、クリスマス行事の際に家族会を開催し、家族間や職員との交流を深めながら、利用者の日常の様子や行事参加の様子などを具体的に伝えている。家族会や運営推進会議に家族全員が参加するなど、要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 歌のボランティアの月2回の来訪による演奏や校区運動会への利用者の参加など、地域との交流が行われている。近隣の商店への買い物や日々の散歩時の声かけ、挨拶など、自然な形で地域交流への取組みがある。また、ホームに近隣の小学生が気軽に遊びに来たり、民生委員の月1回の訪問、交流がみられるなど地域に自然に溶け込んでいる。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「地域に密着した支援活動」を理念とし、地域のなか の生活や地域と利用者とかかわりを重視しながら、 人としての尊厳と心のふれあいを大切に常に寄り添っ たケアの提供に努め、利用者が安心して快適に楽しく 暮らせるよう支援している。近隣の小学生がホームに 気軽に訪れたり、毎月、民生委員が訪問するなど、地 域との交流が行われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所に掲示し、自然に目に入る工夫があ る。業務の合間に常に理念に立ち戻り、確認してい る。日々の職員同士で業務と理念と照らし合わせて 検討したり、月1回のミーティングを通じて、理念に基 づいたケアについて協議するなど、理念の実践に向 けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	歌のボランティアの月2回の来訪による演奏や校区 運動会へ利用者の参加など、地域との交流が行われ ている。近隣の商店への買い物や日々の散歩時の声 かけ、挨拶など、自然な形で地域交流への取組み がある。また、近隣の小学生がホームに気軽に遊び に来たり、月1回、民生委員の訪問・交流が行われる など、地域に自然に溶け込んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議に報告を 行い、職員はミーティング時に改善についての協議を 行うなどの取組みがある。この過程で民生委員が運 営推進会議に参加したり、全利用者のケアについて 毎月検討するなどの具体的な成果がみられる。今回 の受審にあたり、全職員で項目の内容を検討し、管 理者が確認するなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、いきいきセンターふくおか職員、家族全員の参加のもとに2ヶ月毎に開催している。運営推進会議時に、ホームの活動状況や外部評価の報告、町内会長・民生委員から情報提供が行われている。運営推進会議時に、地域包括支援センター職員に成年後見制度などについて説明をもらうなど、運営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に毎回、いきいきセンターふくおかの職員の参加がみられる。運営推進会議を通じた連携や生活相談員による訪問、利用者との交流など、市町村との連携への取り組みがある。ホームの運営面や移転について相談し、助言をもらうなど、市町村と連携して質の向上に向けて取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に成年後見制度や日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)についていきいきセンターふくおか職員から制度の概要や利用手順について説明を行い、家族全員、職員全体で理解を深めている。成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要や利用手順について必要時、活用に向けての支援を行なっている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の声かけや電話連絡などを通じて、利用者の心身状況やホームの活動状況などの報告を行なっている。毎月、ホーム通信を送付し、外出や行事などについて報告を行うなどの取り組みがある。年1回、クリスマス会の後に家族会を開催し、家族間や職員との交流を深めながら、利用者の日常の様子や行事参加の様子などを具体的に伝えている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議に家族全員が参加し、家族との交流を深めながら、要望や意見を出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。家族会や家族の面会時の何気ない言葉やふとした態度から、家族の思いの把握に努めている。出された要望や意見については、内容に応じてその場での回答や、ミーティング時に話し合い、ケアに活かすなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はない。新しい職員が入職した際は、1ヶ月程度は日中のみ勤務とし、長年勤務しているなじみの職員とともに業務に携わり、利用者へのかかわりを主に行ないながら、管理者、なじみの職員が見守り・指導にあたるなどの支援体制がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別、経験の有無などによる制限はない。人柄を重視しての採用である。料理や歌など、職員一人ひとりの特技や趣味を活かし、やりがいを持って生き生きと勤務していけるように支援している。毎月の行事や外出などについて輪番で担当職員が主に企画するなど、自主的に活動する工夫がみられる。外部研修参加や資格取得を目指す職員に対しては、勤務調整を行うなど、質の向上に向けて支援する体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務にて高齢者の尊厳について指導を行うなど、職員の人権意識を喚起する取り組みがある。法人内事業所との合同研修へ職員が参加し、事業所内で受講報告会を行うなど、職員全体で人権教育・啓発活動について学ぶ取り組みがある。事業所独自で地域の公民館で人権学習会を開催する予定であり、地域の方々や全家族への参加を呼びかけている。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は案内を提示して参加を募ったり、研修内容を考慮し、管理者が外部研修への参加を促すなど、研修参加の機会を確保する取り組みがある。ミーティング時に受講報告を行い、職員全体のスキルアップを図るなど、質の向上に向けて取り組んでいる。今月からミーティング後、勉強会を行う予定であり、職員全体でレベルアップを図る取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会に加入し、他の法人内事業所は県のグループホーム協議会に加入しており、法人内事業所による3ヶ月毎のリーダー会議にて、情報共有や意見交換、交流が図られ、日々の業務やケアに活かす取り組みがある。今後、法人内事業所間で職員の3日間の相互交換による研修を行う予定である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の利用者・家族の見学や数回の面談、体験利用などを通じて、生活の様子や本人・家族の意向を把握し、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取り組みがある。入居直後は、家族への面会を願い、利用者へは頻繁な声かけなどのかかわりを多く持ち、利用者が徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者寄り添い、話しを傾聴するなど、常に尊敬の念を持って接している。日常の中でのかかわりを通じて、利用者同士の自然な見守りが行われたり、利用者と職員が協力し合いながらの生活場面が見受けられた。利用者が職員にねぎらいや感謝の言葉を自然にかけると、お互いを尊重し、支え合いながら過ごしている関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や家族の面会時、家族会などを通じて、家族の思いの把握に努めている。介護老人保健施設などからの情報提供書や日々のかかわりを通じて、利用者の何気ない言葉や表情などから利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取っている。毎月のミーティング時に職員全員で検討を行い、介護計画書へ反映させるなどの取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の面談や家族の面会、家族会などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。日常のかかわりの中で、利用者の動作や表情などから利用者の思いや意向を汲み取り、サービス担当者会議にて職員全体で協議・検討し、介護計画書へ反映させるなどの取り組みがある。毎日ケアプランの内容をチェックし、評価を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のモニタリングや状況の変化時、家族の希望 時、または3ヵ月毎に内容の評価、検討及び再作成が 行われている。利用者の情報交換や心身状況の変化 について申し送り時や朝礼時に確認を行い、月に1度 のミーティング時に、職員全体で利用者や家族の意 向の確認が行われ、ケアについての手順や内容につ いての見直し、再作成が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関による週1回 の往診や訪問看護師による連携支援、かかりつけ医 への受診介助、入院先の主治医・医療関係者との連 携における早期退院など、利用者の状況や家族の要 望に応じて、柔軟に支援している。利用者の個別の要 望にて家族との墓参りや外食、近隣の理美容室への 外出支援などが行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホーム協力医との連携により、週1回の往診 や訪問看護師による利用者の状態把握及び状態に 応じて協力病院への受診の支援がある。かかりつけ 医への受診については、家族の協力を得てホームに て支援するなどの取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時にホームとしての重度化や看取りについて の方針について説明し、利用者の意思をふまえた上で、 家族などの同意を文書で得ている。協力医療機関の かかりつけ医や訪問看護師と連携を図りながら、その 都度家族と話し合い、重度化に伴う確認書にて同意 を得るなど、家族、主治医を交えて協議し方針を共有 し重度化に対する支援体制を整えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、入職時に法人代表者などが指導するなど、職 員の意識の向上を図る取組みがある。利用者一人ひ とりに応じた呼称やタイミングを見計らってゆっくり、さ りげない声かけを行ったり、視線を合わせて笑顔で傾 聴するなど、利用者一人ひとりの自尊心やプライバ シーに配慮した対応がみられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちを尊重し決して無理強 いせず、様子を見ながら声かけを行っている。利用者 の希望や状況に応じて、起床や食事・入浴のタイミ ング、食事のペースなど、利用者一人ひとりのペース を尊重し、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	法人内の管理栄養士が栄養バランスを考慮したメ ニューをもとに、利用者の希望に応じたメニューを取り 入れながら、利用者とともに食事づくりに取り組んで いる。配膳や下膳、台拭き、食器洗い・食器拭きな ど、利用者が出来る範囲でかわる取組みがある。 利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、和やかな雰 囲気の中で食事を楽しめる取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午後から夕方近くまでの時間帯で、週2-3回の入浴 を行っているが、毎日の入浴も可能であり、利用者の 希望や状況に応じて柔軟に対応している。入浴の回 数や順番など、個別の希望に応じて支援している。入 浴が苦手な利用者には、声かけを工夫するなど、快く 入浴できるような支援がみられる。職員が2人介助で 安全に入浴を行っている取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	配膳、下膳、台拭き、食器洗い、食器拭きなど、利 用者の出来ることや生活歴などを把握し、利用者一 人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。日々 の散歩や買い物、読書、草木の手入れなど、日常の かわりの中で利用前の職業や利用者の楽しみごと ・得意なことを把握した上での働きかけがみられる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	月1回程度は、外食や花見など、利用者全員で外出 を行うなどの取組みがある。日々の散歩や個別の要 望にて買い物や近隣の理美容室への外出など、利用 者の要望に応じて戸外に出かける支援が行われてい る。利用者の希望に応じて家族と一緒に墓参り・法事 や外食を行うなど、利用者の希望やその時々状況 に合わせた積極的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、自由に入出入りできる。 職員は利用者の様子をきめ細かく観察・見守って おり、さりげなく声をかけたり一緒に付き添うなど、利用 者の自由な暮らしを支える対応と安全面への配慮が ある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身 につけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導による避難訓練を行い、避 難場所や避難経路・方法などの確認が行われている。 地域の協力体制については、地域の消防団員や 近隣住民との日々の付き合いを通じて、近隣の協力 が得られるための働きかけがみられる。定期的に地 域の消防団員の方が、消火器の点検や避難方法に ついて助言するなどの協力体制がみられる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	献立は法人内の管理栄養士が栄養バランスを考慮 したメニューをもとに、ホームで調理し提供している。 利用者の状況に応じて、きざみ食を提供するなど、栄 養面への配慮がみられる。利用者毎に毎回の食事量 の記録などを行い、水分摂取量が少ない利用者へ は、頻繁な声かけを行い、水分量をチェックするなど、 栄養摂取や水分確保への支援がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は自然の光を採り入れ、絵画を飾るなど、 明るく快適な空間となっている。リビングには、季節を 意識した装飾や手作りの品々、外出時・行事のスナッ プ写真が見受けられ、家庭的な雰囲気と心なませる 空間を醸し出している。室内犬が飼われており、利用 者・家族、職員の癒しとなっている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドやタンス、机、椅子、テレビ、ぬいぐ るみ、調度品、家族の写真などの馴染みの物や使い 慣れた物が持ち込まれており、安心して居心地良く過 ごせるための居室作りの工夫や配慮がみられた。 床は、転倒による危険性の予防のため畳を敷いたり、 ベッドを置く居室には、フローリングにするなど、安全 に過ごすための工夫がみられた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号